

スマホ、インターネットを 安心・安全に利用しましょう

春の卒業・入学・進級の時期は、青少年のみなさんが初めて自分のスマホなどを手にするタイミングです。

フィルタリング※¹や家庭内ルール等を活用したペアレンタルコントロール※²について確認しましょう。また、インターネット空間においては、「偽・誤情報」の流通・拡散（災害時や選挙の際に拡散される偽・誤情報、生成AIにより作成された偽動画等の氾濫等）が社会的に大きな課題となっています。

インターネット上の偽・誤情報に騙されないため、情報を簡単に信じずに正しい情報が見極めること、安易に情報を投稿・拡散しないことが大切です。

※¹フィルタリングとは、良くないサイトやアプリをブロックするサービスで、必要なサイトやアプリは許可することもできます。

※²ペアレンタルコントロールとは、保護者がこどものライフサイクルを見通して、その発達の程度に応じてインターネット利用を適切に管理すること。

☎総務省中国総合通信局 ☎082-222-3393

立川志らく 独演会

周防大島和佐の旧公民館での落語会、七回目の出演は立川志らく師匠。8年ぶりの再来島です！落語立川流の真打の芸をぜひご堪能ください。

日時 4月25日(土) 午後2時～(午後1時開場)

場所 和佐星舎(旧和佐公民館)

出演 立川志らく(前座あり)

参加費 ・一般 前売 4,000円(当日 4,500円)

・中高生 前売 2,000円(当日 2,500円)

・未就学児・小学生 無料

(必ず保護者同伴でお願いします)

申し込み方法

寄り道バザールホームページからお申し込みいただくか、チケット取扱店にてご購入ください。



(詳しくは、ホームページをご覧ください、お問い合わせください)

☎寄り道バザール(中村) ☎090-4527-2906

周防大島の文化財70

茶粥

周防大島町文化財保護審議会委員 光田 伸幸

茶粥を周防大島ではチャガイ、チャガエなどという。奈良発祥といわれ、「古事類苑」に聖武天皇の時代から茶粥を食したと書かれているが、周防大島にどう伝わったかについてはいくつか説がある。吉川家が年貢米の不足に悩み、岩国領で節米に茶粥を奨励したといわれており、それが伝わったという説が一つ。北前船が風待ちに地家室に立ち寄ることがあり、そこからもたらされたのではないかという説が一つ。江戸時代に紀州の漁師が来るようになり、そこから伝わったという説などがある。

周防大島は耕地に乏しく、明治以後も米は貴重であった。節米という意味合いが大きい。朝夕に食べるだけでなく、農繁期の休憩、世間話の際のお茶、子供のおやつにも粥がだされていたように、日常生活にとけこんでいたと思われる。

茶粥に用いるお茶は、おもに粉茶(細かく砕いたお茶)や豆茶(カワラケツメイ)などを晒(さらし)で作った茶袋に入れて使うが、近年は簡便なほうじ茶のティーパックを用いる家庭もある。

炊くときは、釜にまず水と茶袋を入れて茶を煮出し、沸騰するころに茶袋

を取り出す。水の量に対し1割〜2割くらいの米を研がずに入れる。かつてはカンス(鐘子)とよばれる専用の鉄釜で炊いていたが、口が小さいので火力が強いと吹きこぼれる。泡が出そうになると、うちわであおいだりして鎮めていたという。少し芯が残るくらいで火を止めると米がふっくらとなり、サラサラの茶粥の出来上がりである。

茶粥にはサツマイモや大豆、ソラマメ、中には団子や餅、おかきを入れる家庭もあり、炊く途中に頃合いを見て入れる。味の変化を楽しむことができるが、サツマイモにはさらなる節米の意味合いもあった。近年は作る家庭も減っているが、貴重な食文化であり、後世に伝えてゆきたいものの一つである。



宮本常一記念館で展示しているカンス